

地域と協同の 研究センターNEWS

2022年7月25日発行

215号

研究センターに集う人々の言論と研究を深めていくことに期待する

近本聡子（愛知学泉大学 教授）

（1）戦争状況に科学は通用しにくくなるのか

大学生の頃、私は冷戦時代に育ったので、学生同士でよく議論をしたものである。旧ソヴィエトが日本に侵攻してきたら、白旗あげて服するのか、戦い抜くのか。政治学科だったこともあり、国際政治学や平和の均衡論など学んだことが、今になって少し役にたつようになるとは考えもしなかった。世界は叡知をえて、均衡を保てるのではないか、極地的にはいろいろあろうが、と考えられる時代だったのである。ヨーロッパがEC政策を進めていたこともあり、連帯や統合という方向が近いのではないか、と思わされていた。

2022年、ロシア国によって、戦争状態に引きずり込まれた国や地域は、戦火のもとにあるウクライナ共和国のみではない。世界のエネルギー資源が高騰し、他要因も含め経済状況や軍事政策にも影響が大きい。このような中で、くらしの「しやすさ」を議論できるのはまだ恵まれた国や地域である。かつて、賀川豊彦が戦争（第二次世界大戦）に加担していると大批判されたように、戦争状態は「どちらの味方で、どう振る舞うのか」が日本全体、日本の参政権をもつ人々すべてに問われる状態を引き起こすのであり、それが後世に賛辞や批判を浴びると覚悟しておいたほうが良いと考えている。私は民主主義というルールの中かで、このルールを身につけて生育したので、100%「ロシア国は間違っている」という立場である。しかし、こちら側にもプロパガンダが忍び込んでいることも重々承知しているのであるが。軍事費の増額、エネルギー高騰を抑える戦略、経済の活性化政策、すべて個人は賛否を示して理由も突き詰めて表明しないと、危ない時代である。エネルギー高騰に対し「節約しよう」というのは単純で、国の政策に沿っている。例えば、電力会社に値下げを要求しよう、という提案も可能である。現在の被雇用者の給与水準比較で、業界としては最上位近辺にいるのだから、値下げするべき、すなわち傘下の被雇用者の賃金を低下させても生活水準としては「余裕はある」と考える人もいる。利益を消費者に還元するべきだという主張である。

【2頁につづく】

研究センター7月の活動

2日（土）共同購入事業マイスターコース第1回	16日（土）東海交流フォーラム実行委員会・第2回理事会
4日（月）名城大学「ボランティア入門」⑬	18日（月）名城大学「ボランティア入門」⑮
6日（水）2022 国際協同組合デー in 愛知記念企画	21日（木）名古屋市立大学「現代社会と人と地域のつながり」⑭
7日（木）名古屋市立大学「現代社会と人と地域のつながり」⑫	23日（土）友愛・協同セミナー⑨
11日（月）名城大学「ボランティア入門」⑭	26日（火）三河地域懇談会世話人会
13日（水）三河地域懇談会やなマルシェ見学	28日（木）名古屋市立大学「現代社会と人と地域のつながり」⑮
14日（木）名古屋市立大学「現代社会と人と地域のつながり」⑬	30日（土）持続可能なまちづくり in 飛騨

※ 各行事は新型コロナウイルス感染対策をとって実施しています。

目次	研究センターに集う人々の言論と研究を深めていくことに期待する	1	近本聡子	協同組合の平和への取り組み	5
	「おたがいさま」「くらしたすけあいの会」総会に参加して	3		情報クリップ	6
				企画の紹介	8

【1頁よりつづく】

（2）地域や暮らしについての研究も落とし穴はある

賀川豊彦は1930年代まで平和構想をもっていたが、1940年代に「戦争支持」に至っているⁱ。詳細については多論考があるが、戦争状況は、平和（降伏）か戦争かという二者択一を迫るものであり、様々な生活課題の解決方法が参戦や軍隊の援助、国への加担に結びついていく。なぜなら背景には集団存続の危機が必ず存在するからである。日本はどんな体制であっても第二次世界大戦という戦争に突入していただろうという歴史学者が複数存在しているが、現在ロシアがその論法で戦争しているのには驚いた。

コロナ感染もそうであるように、生活の協同を考える上で、欠かせない人々の共通の価値があると私は考えており、例えば「なるべく感染を抑え、感染しても死なないよう生活を変化させる」こと、「エネルギー高騰に立ち向かうための節約をする」などすぐに思いつくことができる。しかし、そのことが、突き詰めるとどういふ社会変動をもたらすのか、ということを一いち考える必要がある。先をみるのが、研究としては重要であり、自分の立ち位置を明確にし、協同すると危険なものには「NO」をいう必要があると考えている。なぜなら、協同して軍隊を作るといふ発想も可能である。近代の国民国家が主流になるまで、自治区や都市（主に西欧）は城壁を作り、街や生活を防御していたのではない。

このような議論を深める場として、研究センターに集う人々が、自己の立ち位置を明確にしなが、今必要な解決策ではなく、何を許容するのか、排除するのかを議論することができることが望ましいと昨今は強く思っている。

消費生活協同組合の場合、日常の食料のことがらに議論すべき価値が集中しているので、時代に合わせて協同の価値を変化させてきたと私は考えている。これらは議論しやすく、研究もしやすい領域で、多くの人々がどのように考えているのか、何を食いたいのか、どう調理したいのか、を人々に聞くことで、または実際に何を購入しているのかデータをみることで、かなり正確に把握できるのである。しかし、戦争状況はより複雑な社会構造をもたらす。スルーできない現実が目の前で展開していつている。すぐに戦争に加担する方向に影響を与えてしまうことがら、ペンディングにしておけないことがら、を明確にしなが、協同していくことが重要ではないのか。

（3）「戦争状態が解除されるまで」では済まない

平和について、いつも行動している生協の人々が、なんだか恐れて声が小さいのが気になる。あれってすごく義務的、あるいは仕事の行動だったのか。この状況では、軍事力も必要だと考えている人が増加しているが、生協の人たちもかな、と考えたりする。なんも考えない日本人から、あたふたしている人への変化か、とも思える。

具体的に現状について述べると、たとえば「親ロシア派」は排除なのか？ コープ商品を買っているなら協同する（集団への包摂をする）のか、つまり、買い物での協同には戦争を問わないのか、別なところ、例えば地域活動では排除なのか。ウクライナ避難民を嫌う人々は排除なのか？ 包摂なのか、コロナ禍でも話題になっている事柄も同様で、「日常もマスクを拒否する」人々は排除なのか、ワクチン接種に反対している人々は排除なのか。コロナ・ウイルスに関しては、なるべく科学的エビデンスを得たい人々が多いが、戦争状況は正義の問題を噴出させるのであり、エビデンスのもつ力も弱い。その状況のなかで、さまざまな論説や、自分や協同の力が社会にとってどのような影響があるのかを、言論の自由のもと、他の人々と意見交換ができる場は大変貴重でかつありがたいものである。その先、を見なが、落とし穴を見つけなが、考えていきたい。

（ちかもと さとこ）

ⁱ 「戦時下賀川豊彦の思想と行動」小南浩一 『北陸法學第9巻第2号』（2001）

「おたがいさま」「くらしたすけあいの会」総会に参加して！

報告：研究センター事務局

この 4 月・5 月に開催された各地域の「おたがいさま」「くらしたすけあいの会」の総会に地域と協同の研究センター事務局として参加しました。その報告です。

「おたがいさま東部」

報告：熊崎 辰広（くまざき たつひろ）

「第 9 回おたがいさま東部総会」は、5 月 10 日に多治見市の「とうしん学びの丘エール」で開催されました。コロナ禍で人と人の接する活動として、どうしても減少せざるをえない状況ですが、2019 年度まで右肩上がりに増加していた年間利用時間と年間利用者の減少が目立ちました。2019 年度の利用時間は約 6600 時間で、2 年続けて 2000 時間ほど減少しています。また利用者数は 2019 年度約 1300 人でしたが、1050 人ほどに減少しました。もっと減少する可能性のある中で、サポーターさんの発表を聞かせていただき、地道な活動の様子がうかがえ、がんばっておられることを感じました。活動の内容は、家事支援がもっとも多く、次に買物支援、そして庭の草取りやお墓掃除などがありました。

利用者の声では「介護サービスで出来ないところを『おたがいさま』で補っていただき、一人で生活ができています。長い間利用していますが、いろいろな話が聞けたり、笑ったりと前向きになります」「育児中の夕食作りをお願いしています。来て下さる方が親切で、とてもいい方です。週に一度でも作ってもらえる日があることで精神的な支えになっています。たった 1 時間のために来てくださり、時間内にすべて終えて下さりとても感謝しています」という声を聞かせていただきました。応援者の声では「いつもそばにいらして話をされ、帰り際までお話が続きタイムオーバーになることがしばしばですが、家族のような気持ちで料理を作っています」との声がありました。こうした利用者と応援者の人間関係の親密なところに「おたがいさま」の特徴があると感じました。

また来賓者のなかに地域包括支援センターの方が多く参加され、そのセンターの方が、いつも「おたがいさま」のパンフをもって、活動の紹介をしている」と言われ、この「おたがいさま東部」がしっかり地域のなかで活動の根を広げつつあると思いました。

「おたがいさま西濃」

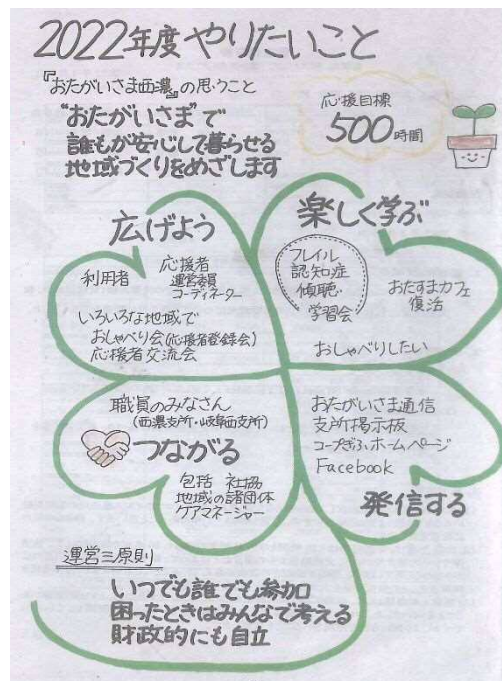
報告：熊崎 辰広（くまざき たつひろ）

「第 2 回おたがいさま西濃総会」が 5 月 18 日、大垣市の江東地区センターで開催されました。

コロナ禍のなかで誕生し、まだ十分な活動の動きになっていないという中、がんばってみると実感しました。2021 年度の応援時間は 150 時間、応援回数は累計で 105 件ということです。活動の内容は、「おたがいさま東部」と同様なことに取り組んでおられますが、それぞれの地域によって、個性が出てくるようです。

利用者の声として「この度はお世話になりました、本当に短時間でとってもきれいにしていただき感謝しています。二人の方にもその様にお伝えください」という声があり、応援者の声としては「病院で待ち合わせをして病棟へ。利用者さんに、ご主人を待つ間に会計を済ませに行ってもらい、ご主人とお話をしながら待ちました。荷物をもってタクシー乗り場へ行きドライバーに到着時、荷物を玄関先まで運んでもらうようお願いしました」との声があり、このような応援は、「おたがいさま」ならではの活動だと感じました。

来賓としては地域包括支援センターだけでなく、地域社協の生活支援コーディネータの方の参加もありました。地域に連携した「おたがいさま」の活動として進められていると感じました。



コープあいちくらしすけあいの会 第 9 回総会

報告：伊藤 小友美 (いとう こゆみ)

4 月 27 日 (水) コープあいちくらしすけあいの会第 9 回総会が名古屋市の生協生活文化会館と、豊橋市の生協会館、春日井市のコープ高蔵寺 NT 店の 3 会場と会員宅を zoom でつなぎ、開催されました。参加者は会場参加・自宅からのオンライン参加・来賓・事務局も含めて 59 名でした。私は、春日井会場でオンライン担当として参加しました。総会としては初めてのオンライン開催でしたが、とても和やかにスムーズに運営できました。概要と感想を報告します。

2021 年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受けました。会員登録数 1742 名、活動時間は 2 万 9 千時間を超え昨年並みでした。感染予防に努め、活動の必要性や可否を確認しながら可能な範囲で活動に取り組んだということです。つながりづくりを大切に、各地域が工夫して少人数で集まり、屋外での交流会などを行ったとのこと。zoom の学習会を企画、「zoom とは何か」を学ぶ入門編と「ホスト (主催者) となる方法を学ぶ」初級編を行いました。これには地域と協同の研究センターも講師として協力しました。会員募集の呼びかけを続け、地域でのつながりを広め、会の組織強化、部会活動をすすめ、LINE での会議も行いました。

2021 年度の会計報告、2022 年度の活動計画・予算についても提案があり、すべて可決されました。特徴的だったのは、コロナ禍で今後の動静は見通せない中、弾力的に対応していくこと、安心安全な活動のため、在宅の運営活動を支援するとの提案でした。

コープみえくらしすけあいの会、コープぎふくらしすけあいの会、おたがいさま東部、おたがいさまひだ、おたがいさま西濃のみなさまにも zoom でご参加いただき、交流ができたことをうれしく思いました。2015 年より始まったプチコーディネータ (コーディネータのサポート役) のしくみがコーディネータ養成につながり、これまでに 8 名の方がコーディネータとなったという報告を受けて、質問も出されました。コロナ禍でなかなかお会いできない方々の顔をモニター画面の向こうに見ることができ、思わず手を振る一幕もありました。

春日井くらしすけあいの会の浜田さんからは、「地域で頑張っている様子もわかり嬉しかった。早く自宅から zoom で交流できるように頑張ります。」との感想をいただきました。研究センターとしてもくらしすけあいの会の活動を応援し、見守っていききたいとあらためて思いました。貴重な機会をいただきありがとうございました。

コープぎふくらしすけあいの会 第 29 回総会

報告：水谷 光由 (みづたに みつよし)

5 月 14 日 (土) 岐阜市の長良川スポーツプラザにおいてコープぎふくらしすけあいの会第 29 回総会が開催されました。コロナ禍の中で、活動件数や活動時間が前年に比べ伸びていることや昨年度取り組まれたいくつかの活動事例も紹介されました。特に印象に残ったのは、以下の二つの事例でした。

一つ目の事例の高齢男性への家事援助 (食事作り) では、総会当日利用会員さんも参加され、料理が好評だけでなく、その後の交流もあり好評のようです。活動会員さんの報告では、得意な料理作り以外はやらないと言われ、自分の得意なことで人の役に立てる活動について述べられていました。

二つ目の事例は、庭の手入れの支援です。庭を一人で手入れされていた奥さんが亡くなられて、庭が荒れてきたので、支援を求められたとのことでした。支援に行かれた活動会員の方がたまたま以前からのお知り合いで、若干の工事 (バラのアーチづくり) もされて、きれいな庭になり、大変満足されたようで感謝のお手紙も紹介されました。その中で、感謝の言葉と共に、「労働」の大切さを感じ、自分もできることで、助けられる側から助ける側の活動を、何かできないかと考えていると話されていました。

こうした助け合いの事例から感じたのは、現代社会の中での「くらしすけあいの会」の存在の大切さです。現代社会は「助けを求めることがしにくい社会」だということが言われます。中でも、「料理を作ってほしい」などという願いは、お弁当や惣菜を買ってきたり、外食したりすることができる現代では、ますますお願いしにくい事になってきているのではないのでしょうか。それが、「くらしすけあいの会」や「おたがいさま」があることで、お願いしてみようかと思えるようになっていきます。「くらしすけあいの会」や「おたがいさま」の存在や活動が現代社会の在りようにも大きな意味を持っていることが感じられました。また、助け合いの活動は、一方的に助けられるだけの関係と思われがちですが、「自分でも他者を助けることができるのではないか」と思える心の在りようが生まれてくることも分かりました。総会に参加させていただき様々な学びがあった 1 日でした。ありがとうございました。

協同組合の平和への取り組み

神田すみれ（地域と協同の研究センター研究員）

8月7日（日）、地域と協同の研究センターと愛知県立大学の共催でセミナー「平和と協同組合の役割～ウクライナからの避難者支援から考える多文化避難者支援～」を開催します。このセミナーは2019年から継続して開催している連続セミナーの一環で「多文化社会と協同組合」の第9回目となります。

このセミナーの準備のため、当日お話をいただくスピーカーのうちの1人、ポーランドのマルセリナさんと先日オンラインで打ち合わせをしました。マルセリナさんは、昨年12月に韓国ソウル市で開催された I C A の世界大会でもユースとして報告をされた方で、ポーランドに暮らす移民の協同組合を設立し、移民によるレストラン事業の運営サポートをされています。

2月にウクライナで戦争が始まってから、マルセリナさんは、ポーランドへ避難するウクライナ難民を支援するインテグレーションセンター(integration=統合、融合、調整)を立ち上げました。そこでは心理的サポートや就労支援を行なっています。就労支援では、例えば、弁護士をしていた女性がポーランドでは弁護士資格が異なるため、キャリアを変更しなければならず、そのため丁寧なヒアリングをして、その人のスキルや興味関心を確認し、ポーランドで新しいキャリアを築くことができるよう支援をしているとのことでした。

また、ガーデニング（畑）や裁縫のプロジェクトも行なっているそうです。インテグレーションセンターの facebook ページを見ると、女性たちが作った作品が紹介されています。畑作業や裁縫はウクライナ女性の楽しみの1つでもあります。（あいち・なごやウクライナ支援ネットワークでも、パッチワークの集まりを企画したり、希望される方をコミュニティガーデンにおつなぎしたりしています。）

このインテグレーションセンターに通うウクライナ人のほとんどが子育て中の女性たち。現在、彼女たちが協同組合を設立する準備を進めており、マルセリナさんはそのサポートをしているそうです。マルセリナさんは「協同組合は世界平和に貢献する役割を担うことができる。国家は紛争・戦争を起こすが、協同組合は国家という枠組みを超えて繋がることができる。協同組合が果たす平和への役割は大きい。」と語ってくださいました。

8月7日のセミナーでは、オンラインで直接ポーランドとつないで、マルセリナさんにお話をいただきます。（英語でお話しいただくため、当日は英日の同時通訳を用意しています。）マルセリナさんの他に、日本協同組合連携機構（J C A）前田健喜さん、神奈川生活クラブ田中入馬さん、地域と協同の研究センター向井忍さんにお話をいただきます。

田中さんは、平和構築の活動をする NGO でお仕事をされていた経験、現在の生活クラブ生協で仕事をされる経験から、そして世界各地の協同組合に関わる若い世代とのネットワーク、ウクライナやロシアの若者とのやりとりをされる中で考える平和について、また、先月からはご実家でウクライナの大学生の受け入れをされており、地域で避難民を受け入れるという経験からもお話をいただきます。

また、デンマークの Kooperationen 協同組合 Susanne Westhausen さんからは、当日参加いただく皆さんに向けて平和と協同組合というテーマでビデオメッセージをいただきます。

8月7日は、多くの方と一緒に平和について協同組合の担う役割を考える機会となるでしょう。7月20日現在、日本からはもちろん、ネパール、オーストラリア、ポーランド等、海外からの参加申込みもいただいています。たくさんの方のご参加をお待ちしております。お申し込みはこちらの QR コードから、または研究センターへご連絡ください。会場は、ウインクあいち（愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38）、オンラインでもご参加いただけます。

（かんだ すみれ）



情報クリップ

co-opnavi 2022.7 No.842

事業間連携で組合員のくらしを総合的に支援

日本生活協同組合連合会 2022年7月 A4判 36頁 367円(消費税込)

<コープのある風景 コープながの>

コープながの 中野センター リーダー 丸山岳洋さん
特集

事業間連携で組合員のくらしを総合的に支援

<今日も笑顔のコープさん 生協の仲間のお仕事拝見>

コープぐんま 堀越照代さん

<想いをかたちに コープ商品>

CO・OP再生PET使用 つめかえボトル 500ml用

<生協大好きママコブ山さんの 教えて!CO・OP商品>

CO・OP くちどけなめらかアイス ラムレーズン

<ネクストブレイクCO・OP商品>CO・OP焼おにぎり

<組合員に支持される店づくり・売り場づくり>コープしが

<日本全国 宅配現場におじゃまします!> コープこうべ
<みんなで学ぼう!店舗における衛生管理>

コープデリ連合会

<後方支援のお仕事紹介!組織を支える縁の下の力持ち>

東海コープ事業連合

<SDGs REPORT>

コープみえ

<明日のくらし ささえあうCO・OP共済> ならコープ

<この人に聴きたい>

伊優、公益財団法人動物環境・福祉協会Eva 理事長

杉本彩さん

<ホットnavi> コープデリ連合会 / とくしま生協

月刊JA 2022.7 vol.809

第29回 JA 全国大会決議の実践に向けて④

全国農業協同組合中央会 2022年7月 A4判 48頁 年間予約5,204円(消費税込)

特集 第29回 JA 全国大会決議の実践に向けて④

一 『食』『農』『地域』『JA』にかかる

国民理解の醸成にどのように取り組むか

JA 全中 広報部 広報課

JA 自己改革の進化

JAが育てる有機農業と有機農業者

一 JA やさと(茨城県)の取り組み 和泉真理

きずな春秋 ―協同のこころ―

童門冬二

展望 JAの進むべき道

今こそ事業・活動・組織・人材の一体的な変革を

山田秀顕 (JA全中常務理事)

「国消国産」に向けて 第4回

「国消国産」と伝統野菜への期待 古江晋也

JAグループとSDGs 第4回

獣害、耕作放棄地対策でドクダミ産地化へ品質の確保と収益性が鍵

久米千曲

協同組合の広場

(日本生協連、JF全漁連、全森連、ワーカーズコープ)

研究者からの提言 第4回

農業外企業の農業参入とJA営農指導事業との

協働体制確立の可能性

細野賢治

トピック①

第72回“社会を明るくする運動”

法務省保護局更生保護振興課

トピック②

協同組合はよりよい社会を築きます

前田健喜

海外だより [D.C.通信] 連載133回

インド太平洋の経済枠組み(IPF)が発足

伊澤 岳

第35回 広報活動優良JA紹介

総合の部 準大賞 JAあいち中央 (愛知県)

生活協同組合研究 2022.7 VOL.558

超高齢社会の介護問題：介護人材の不足にどう対応すべきか

公益財団法人 生協総合研究所 2022年7月 B5判 80頁 定価550円(消費税込)

巻頭言 コロナ禍とケア民主主義

相馬直子

特集 超高齢社会の介護問題

：介護人材の不足にどう対応すべきか

高齢者介護の現状と今後の展望

結城康博

介護保険が直面する2つの制約条件

一財源と人材の不足への対応、科学的介護をどう活用するか一

三原 岳

介護離職を防ぐ“在宅介護サービス”

一ホームヘルパーの賃金をあげ

訪問介護を維持する方法を考える一

下野恵子

日本の外国人労働者受け入れの成果と課題

一今後の方向性について考える一

塚田典子

コラム 1

『「寝たきり老人」のいる国いない国』から 30 年余、変わったこと、変わらなかったこと、そして、これからのこと

大熊由紀子

コラム 2

地域購買生協の福祉・介護事業の現状と今後の展望

白間勝則 ・ 梅津寛子 、 聞き手：中村由香

国際協同組合運動史 (第 4 回)

国際協同組合同盟 (ICA) 第 2 回バリ大会 鈴木 岳

■本誌特集を読んで (2022・5) 阿南 久・清山 玲

■新刊紹介

宮台真司・野田智義

『経営リーダーのための社会システム論構造的問題と

僕らの未来』 藤田親継

■研究所日誌

●生協総研賞助成事業 「第 20 回助成事業」の応募要領

●アジア生協協力基金活動報告書

『アジアに架ける虹の橋』刊行のお知らせ

●公開研究会 (オンライン)

協同組合原則改訂の議論をふりかえる 7/15

アジア生協協力基金活動報告会 8/26

健康になれる社会のしくみづくりに向けて 9/28

●全国研究集会

地域における多様な「協同」の形を考える (仮題) 11/5

文化連情報 2022. 7 No. 532

核・温暖化・コロナ禍の不条理を考える

日本文化厚生農業協同組合連合会 2022 年 7 月 B5 判 96 頁 文化連情報編集部 03-3370-2529 *注

農協組合長インタビュー (81)

従来の枠を超えた取り組みで組合員支援を推進

福本博之

院長インタビュー (333)

新しい医療センターへ再構築

全室個室病棟や病棟連携に挑戦 宮下俊彦

広島県内 J A における小水力発電事業

持続可能な農業・地域共生社会の未来づくりに向けて

J A 広島中央会 J A 支援部 営農くらし支援課

二木教授の医療時評 (202)

医療経済・政策学の視点から

2022 年度診療報酬改定の問題点を考える 二木 立

人間の責任

核・温暖化・コロナ禍の不条理を考える 伊藤澄一

食から考える現代資本主義社会 (2)

小麦はどうやって「主食」になったのか

—穀物の政治経済史を考える 平賀 緑

野の風

半農・半隠居の今 山口和弘

アメリカの医療政策動向 (23)

非営利病院とコミュニティ・ベネフィットの動向

高山一夫

変わる日本のまちづくり (25)

移動スーパーとくし丸にみるまちづくりの哲学

杉岡直人・島山明子

ドイツの対 COVID-19 戦略

危機時の診療体制を支えた家庭医たち 吉田恵子

国民が安全安心に暮らせる社会の構築 (11)

住民たちと作る新しい地域

—マウルホテル 18 番街協同組合 友岡有希

多様な福祉レジームと海外人材 (50)

家事支援外国人の雇用問題 安里和晃

臨床倫理メデイエーション (60)

入院時重症患者対応メデイエーターについて

中西淑美

全国統一献立

愛知県の郷土料理 味噌煮込みうどん 坂神孝充

アフガニスタンから見た世界と日本 (26)

アフガニスタンの惨事、衛生と食糧事情

—今、国際社会にできること—

レシャード カレッド

デンマーク & 世界の地域居住 (157)

介護組織とボランティア組織が統合して取り組む

「近隣チーム (アムステルダム市)」 松岡洋子

熱帯の自然誌 (76)

プナン族のこと (3) 砂金採り 安間繁樹

口自著を語る

日本の医療を切りひらく医事法 岡田行雄

口書籍紹介

SDGs の秘密 ① 貧困をなくそう

科学リテラシーを磨くための 7 つの話

少年のための少年法入門

▼線路は続く (165) ウミネコ飛び立つ八戸線

／西出健史

▼最近見た映画 FREE フリー

／菅原育子

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています (主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお問い合わせください。

企画の紹介

佐藤尚子会員からの紹介

2022年歴史教育者協議会 全国大会 8月6・7日

第73回愛知/東海大会

大会テーマ いのち・平和・民主主義—地域に根差し、未来を紡ぐ—

とき：全体会8月6日（土）10時

会場：南山高等学校・中学校（女子部）

名古屋市営地下鉄鶴舞線「いりなか駅」下車徒歩3分

参加費：教員 6,000円 学生・一般 2,000円

10:00 基調提案：山田朗（歴史教育者協議会委員長・明治大学教授）

地域実践報告：君は「満州」に行くか 報告者：飯島春光（長野県歴教協）

—中国残留日本人の孫たちとともに学んだ戦争と平和—

中国残留日本人として生きてきた中学生の祖父母、曾祖母への聞き取りを通して、「君は満州に行くか」・「満州へ行った人々はどうなったか」を主題に、学生ぐるみで取り組んだ18年間の社会科、総合的な学習の実践を発表します。

分科会 8月6日(土)13:30~17:30 8月7日(日) 9:00~14:30

各地の学校・地域で取り組まれた授業実践や研究を交流します

第一テーマ（歴史と現代）分科会1～8

1：地域の掘りおこし 2：日本前近代 3：日本近現代 4：世界 5：憲法と現代の社会
6：思想・文化・文化活動 7：現代の課題と教育 8：平和教育

第二テーマ（地域・子ども・授業）分科会9～22

9：幼年・小学校低学年 10：小学校3・4年 11/12 小5・小6合同 13：地域の中の子どもたち 14：中学校地理 15：中学校歴史 16：中学校公民 17：高校 18：大学
19：障がい児教育 20：父母市民の歴史教育 21：社会科の学力と教育課程 22：授業方法
大会ではその他「地域に学ぶ集い」が10のテーマで開催（6日 18:00~17:00）

主催：一般社団法人歴史教育者協議会 第73回愛知・東海大会実行委員会

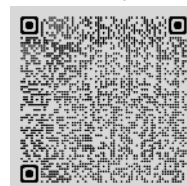
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-13-8 千成ビル 歴史教育者協議会内

TEL03-394-5701 FAX 03-3947-5790 E-mail jimukyoku@rekkyo.org <https://www.rekkyo.org>

地域と協同の研究センター8月の予定

- 2日（火） JCA近畿・東海・北陸ブロック情報交換会
- 3日（水） 第81回生協の（未来の）あり方研究会
- 4日（木） 第2回協同の未来塾
- 6日（土） 第2回共同購入事業マスターコース
- 7日（日） 愛知県立大連続セミナー「平和と共同組合の役割」
- 10日（水） 研究フォーラム環境世話人会
- 12日（金） 尾張地域懇談会
- 22日（月） 愛知の協同組合間協同連絡会
- 25日（木） 研究フォーラム地域福祉をささえる市民協同
- 27日（土） 第3回協同の未来塾

地域と協同の研究センターFacebook
下記QRコードでご覧ください。
Facebook QR コード



※企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期・オンライン参加のみとなることがあります。参加の前にホームページ等で確認ください。

地域と協同の研究センターNEWS 第215号

発行日 2022年7月25日 定価 200円（税・送料込み）

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 鈴木 稔彦

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-3-9 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>